

薩 摩 川 内 市
中 期 財 政 運 営 指 針

令和 4 年 2 月 2 1 日
行財政運営プロジェクト

本市においては、地方交付税の段階的縮減を踏まえ、平成24年度から令和2年度まで財政運営プログラムに基づき財政運営に取り組んできました。今後においても健全で持続可能な財政運営を行っていく必要があると考えますが、そのための方向性として、「薩摩川内市中期財政運営指針」を策定することとしました。

1 これまでの取り組み

本市では、財政運営において、平成16年11月に「財政健全化計画・中長期財政運営指針」、平成24年11月には「財政運営プログラム」を策定し、持続可能で健全な財政運営に取り組んできました。

2 財政運営プログラムの検証

平成24年から取り組んできた財政運営プログラムについては、基金残高や地方債残高において目標を達成できたと考えています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、感染症対策・地域経済支援について今後も引続き対応していく必要があります。加えて、実施が先送りになったかごしま国体の経費や年々増加する物件費や扶助費、施設等の老朽化に伴う維持管理経費により、これまで以上に厳しい財政運営となることが予想されます。

3 本市の財政運営の状況

本市は財政運営プログラムに基づき、年次的に財政調整基金・減債基金を費消してきており、両基金を合わせた残高は約41億円減少しています。また、本市の実質単年度収支は平成27年度以降マイナスとなっています。一方実質公債費比率・将来負担比率は年々減少してきています。

4 他市との比較

本市の現状をより客観的に把握・分析するため、県内の2市及び他県の類似団体2市との比較を実施しました。その結果、県内2市との比較では、人口規模に比して、本市においては両市よりも多額である経費が存在しており、両市の人口を本市と同等と置き換えた場合には、多くの経費で本市が多額となっていることが分かってきました。

また、類似団体との比較では、本市が決算総額では両市を大きく上回っている状況が見えてきました。

5 今後の取り組み

今後も健全で持続可能な行財政運営を行っていくため、財政運営に関しては、今後の財政運営の指針となる中期的な視点に立った数値や指標の目標値を設定する必要があると考えます。

また、毎年財政推計を行い、翌年度の予算規模の設定も行います。その際は5年後の財政調整基金・減債基金が適正規模となるように努めます。

6 財政運営における方向性

財政推計を行い、令和8年度を終期とする数値目標を中期財政運営指針として設定します。なお、基金残高については、毎年推計を更新する中で、その都度5年後の数値目標を更新します。

7 財政指標

項 目	基 準 値	目 標 値
	令和2年度(決算)	令和8年度(決算)
普通会計市債残高	382億円	327億円以内
財政調整基金 ・減債基金残高	87億円	88億円以上
実質公債費比率	7.9%	7.0%以内
将来負担比率	0.3%	7.0%以内

8 財政推計

翌年度の予算規模を適正に設定するとともに、毎年度財政推計を行い、5年後の財政調整基金・減債基金の残高が適正な額を確保できているか確認を行うこととします。

(単位：億円)

項 目	R4	R5	R6	R7	R8
決算規模	538	536	534	532	530
積立金残高	128	120	113	108	103
うち財政調整基金	78	78	79	79	79
うち地域活性化基金	15	11	7	3	0
うち減債基金	10	10	10	10	10
うち市有施設保全基金	16	13	10	9	8
地方債残高	363	351	343	337	326